

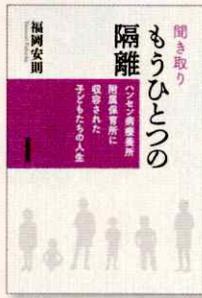
# 落合恵子が選ぶ Other Voices に出会う本 Woman's EYE

Vol.350

〈やっぱり、本はおもしろい!〉

毎月生まれてくるたくさんのお本たち。それらはなぜ出版されたのか。どう読まれたらいいのか? 編集者・翻訳者・営業担当者など、本をつくるひとたちに、紹介していただくユニークな書棚です。書店では見落としがちな本たちの、本音を聞いてください。

オンラインストアでも!



福岡安則/著  
解放出版社/刊  
3,300円(税込)

### 聞き取りもうひとつの隔離

ハンセン病療養所附属保育所に収容された子どもたちの人生

国によるハンセン病患者の隔離政策は、罹患者だけでなく、家族にも多くの苦難を強いてきました。本書では、ハンセン病問題にとりくんできた社会学者が、親とともにハンセン病療養所に収容され附属保育所で育った人々を中心に、ハンセン病患者の家族から聞き取った苦悩の半生を丁寧に記録しました。当事者の体験と想いをそのまま受け取ることが、差別打破の糸口となることを願います。

(解放出版社 小橋一司)



ヘンリー・マンズ/著  
三木直子/訳  
築地書館/刊  
3,190円(税込)

### 僕が肉を食べなくなったわけ

動物との付き合い方から見えてくる僕たちの未来

肉を食べるか食べないか、話はそれに留まらない。食肉や動物に関わる様々な体験と取材を通じ、新聞記者の著者は動物を消費する今の社会が、街の小鳥からアフリカの野生動物まで地球全体の生物と人間にもたらす未来を考える。とはいえヴィーガンなんて難しく。そう思う方には、ぜひ訳者あとがきを読んでいただきたい。同じ思いで迷った一人の読者の、率直な言葉が綴られています。

(築地書館 黒田智美)



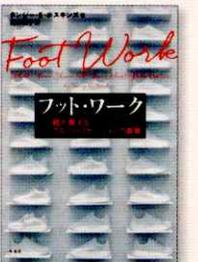
反トランス差別ブックレット編集部  
(青本柚紀、高島鈴、水上文) / 編著  
現代書館/刊 1,100円(税込)

### われらはすでに共にある

反トランス差別ブックレット

2022年に刊行されたZINEの増補版です。トランス差別が苛烈さを増し、現実在即さないトランスジェンダー像が広められ、恐怖と不安が煽られる状況が続いています。そんな現状に抵抗を示すため、全国への流通が可能となる商業出版を企画しました。巻末には映画・書籍のガイド付き。複雑で多様な声を知り、トランスヘイトにあらがうために、まず手に取っていただきたい1冊です。

(現代書館 根岸夢子)



タンジー・E・ホスキンス/著  
北村京子/訳 作品社/刊  
2,970円(税込)  
※デザイン・価格は変更の可能性あります。

### フット・ワーク

靴が教えるクロバリゼーションの真実

毎日履いている靴の、世界中で何層にも重なった下請けチェーンの果てで、生産に従事する人々(特に女性たち)に何が起きているか、そして、そうした人間にも環境にも高負荷なシステムが、地球環境にどのような影響を及ぼし破局を招いているかを明らかにする一冊です。未来を変えるために、一人ひとりが出来る13のアクションも紹介されており、さすがに暑すぎる夏を経たいま必読の本です。

(作品社 田中元貴)



湯澤規子/著  
KADOKAWA/刊  
2,420円(税込)

### 焼き芋とドーナツ

日米スターフード交流秘史

その甘みは、女性労働者のソウルフードだった。ありそうでなかった、間食から紐解く人間交流史。「集いと焼き芋は喜びとささやかな抵抗だった」「日本でもアメリカの女性運動を同時代的に参照し、実践していた」「男女はほとんど平等になっていた」「西開拓地」等。「胃袋」から近現代史を描き直す歴史地理学者が、実は主體的だった女性労働者の実像を蘇らせた。執筆4年の傑作!

(KADOKAWA 岸山征寛)



ルノー・ルブロン/著  
吉野さやか/訳  
アストラハウス/刊  
2,200円(税込)

### アウシュヴィッツを泳いだ男

アルジェリア系フランス人の水泳選手アルフレッドは、トップアスリートとして素晴らしい成績を残していたが、アウシュヴィッツ強制収容所に収監される。極限状態でも他者を思いやり分かち合うアルフレッドの姿は、打ちのめされた人々の気持ちを救い勇気を与えていた。本書は「泳ぐこと」を生きる希望としてアウシュヴィッツを生き抜いた、知られざる英雄の真の姿に光を当てた作品である。

(アストラハウス 戸田賀奈子)



ミシェル・オバマ/著  
山田文/訳  
KADOKAWA/刊  
2,640円(税込)

### 心に、光を。

社会不安の多い時代、元米国ファーストレディですら自信を失うときがある。そんなとき大事にするのは小さな作業、友だちとの時間、家族から得たメッセージ。子どものころから、「浮いている」「この場にふさわしくない」という感覚をしばしば抱いてきたという著者が、どう自分を励まし、乗り切ってきたか。58年かけ獲得した、どんな時も自分らしくいるためのアドバイス。北米275万部初版のベストセラー!

(KADOKAWA 郡司珠子)



イ・ヨンソク/著  
森田和樹/訳  
以文社/刊  
2,860円(税込)

### 兵役拒否の問い

数年前まで、韓国で兵役を拒否した者は否応なく監獄に送られた。この制度を変えるべく活動してきた著者たちは、ついに2020年「代替服務制度」の権利を獲得する。この活動を振り返りつつ、自らも兵役を拒否した著者はフェミニズムの影響がどれほど大きかったかと何度も強調する。韓国社会に根強く蔓延る軍事主義ひいては男性中心主義への批判言語(フェミニズム)が社会を変えていく様を描く。

(以文社 前瀬宗祐)



日下部理絵/著  
主婦と生活社/刊  
1,540円(税込)

### 住まいのエンディングノート

60代からの終の住処を考えるための

日本の60歳以上の持ち家率は約88%に上ります。「持ち家なら、老後の暮らしも安泰」と思いきや、築年数の経った家は維持費がかかるうえ、歳を取ると暮らしにくくなることも多く、不安要素にもなっています。そんな不安を解消する手助けをするのがこのノート。項目に沿って書くだけで、あなたの理想の家や老後のお金の収支がわかり、住み替えやリフォームについても検討することが可能です。

(主婦と生活社 八木優子)